

平成 28 年度 学校（幼稚園） 自己評価結果

関西女子短期大学附属幼稚園
園長 岡本京子

1 本園の教育目標

<p>○建学の精神「感恩」</p> <p>人はみな、様々な恩恵を享受し、生かされている。この真理に目覚め、感動と感謝から発する、豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、私たちは社会に貢献できる。</p> <p>「ありがとう」の出会いに気づき、感動と感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生み出されていく。この建学の精神を体し、その具現化に努める。</p> <p>○教育目標「ひろい心 すこやかな身体 豊かな創造性」</p> <p>①「ありがとう」の感謝の心、「いいよ」と言える寛大な心、「ごめんなさい」と言える素直な心を育成する。</p> <p>②「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など、しっかり挨拶ができる。</p> <p>③絵画製作や音楽リズムを通して、豊かな感性と創造性を育成する。</p> <p>④自然の中で身体を使い、五感をつかって遊ばせる活動を展開する。</p> <p>⑤正課の体育や剣道を通じて、心身ともにバランスのとれた体づくりを実践する。</p>
--

2 本年度、重点的に取り組む目標、計画

<p>学園の教育理念と経営方針、本園の教育目標に基づいて、教職員間の共通理解を図り、自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努め、教育内容の改善に主体的に取り組み、本園が担う幼児教育の役割について考えることを重点目標とする。</p>
--

3 評価項目(事業計画)の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
(1) 本園の保育目標に従い、園児の実態をもとに、教育課程を作成・実践する。	<p>○運動会、作品展、生活発表会などの各行事は独立してあるのではなく、1学期からの子どもたちの様子や発達段階をしっかりと把握し、それに応じた個々の園児への対応、それぞれのクラスや学年の持ち味や特徴をとらえた行事の展開を目指し、計画を立てていくことに取り組んだ。</p> <p>○毎週学年会を実施して、具体的な活動方法について話し合い、学年ごとに特色のある教育活動に取り組んだ。</p>
(2) 幼稚園の状況をふまえて、中・長期的な計画を策定する。	<p>○幼児期の育ちを、小学校以降への学びへとつなげていくために、小学校やその他の校種との連携を積極的に展開した。</p> <p>○子どもたちの育ちの変化や社会の変化に対応し、発達や学びの連続性を確保し、計画的に環境を構成することを心がけた。</p>
(3) 教育力の向上のため、研修の充実を図る。	<p>○研修の機会を確保した上で、大学等を含めた関係機関と有機的連携を図りながら、教員のキャリアステージに応じて、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行った。</p> <p>○教員が学び続けるモチベーションを維持するため、教員の主体的な学びが適正に評価され、学びによって得られた能力や専門性の成果が見える形で実感できるように配慮した。</p>
(4) 園内の施設・設備、安全管理の充実を図る。	<p>○園内の環境及び安全面について、毎日1回の安全点検などを行い、危険防止、環境改善に努めた。</p> <p>○子どもたちは成長するにつれて、慣れから不注意や冒険心を刺激するような態度・行動になるので、教職員が相互に注意し合うように心がけた。</p>

(5) 保護者の要望や意見に適切に対応して、満足度のさらなる向上に努める。	<p>○カリキュラムについて、より具体的な取り組み内容を「学年だより」などに掲載して、少しでもその内容が分かるような工夫を試みた。</p> <p>○園運営や行事などについて、保護者対象のアンケート調査を実施し、意見や要望に対して積極的に対応して、改善できるよう努力した。</p>
---------------------------------------	---

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教職員全員が学校評価（自己評価）の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も、客観的な目で自らの教育を振り返り、さらに充実した教育実践ができるように努力を積み重ねていきたい。また、教職員間でのコミュニケーション能力が向上し、意思伝達がスムーズにできるようになってきている。</p> <p>施設・設備面では環境整備に力を入れており、教育サービスにおいても安心、安全に教育を展開できる環境になるよう努力しており、概ね目標を達成できた。</p>

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
(1) 保育と環境、施設・設備の見直しと改善	○今ある自然環境の良さや施設設備を活かして、子どもたちがより一層学びを深めていけるような、環境の見直しを図っていく。従来の点検、整備を充実できるよう推進していく。
(2) 研究と実践について	○教員の資質、能力向上に向けて、より一層園内外の研修への実施、参加およびサポート体制の充実できるような環境整備を図る。
(3) 園に対する保護者の満足度の把握	○保護者、未就園児に興味や関心をもってもらえるような園庭開放のあり方、教育相談の充実を図っていききたい。そのためにも、分かりやすい説明会、園だより、ホームページの充実を目指したい。また、在園児以外にも、園から発信を実施していく。

6 学校関係者評価

<p>○日常における安全・衛生管理面については、従来通り、週初めの見回り点検（園庭、保育室他）を徹底していく。手洗い、うがいの励行を今後も続けてほしい。</p> <p>○地域とのつながりや未就園児への支援等、認定こども園の移行に向けて、施設、設備を十分に活用し、新たに取り組んでほしい。</p> <p>○発達障がい児指導に配慮して、共に育つ保育が展開されており、その効果は大きなものがあると思われる。</p> <p>○保育計画の見直しを含め、マナーに陥らないよう努力していく。幼稚園の伝統は伝統として持ちつつ、新しいものにも取り組んでほしい。</p> <p>○先生方が皆さん元気よく、笑顔で挨拶してくださるところやのびのび遊べる遊具やお山があるところはとても魅力的で素晴らしいところだと思う。</p> <p>○人数が少し多すぎるかなと思い、先生が目が行き届いていないかと心配な面もありましたが、しっかり見てくださり不安も消えた。</p> <p>○一部の保護者の意見に偏らず、今後のことも含めて、全体バランスをよく見て取り入れてほしい。</p> <p>○これから認定こども園になり、いろいろ変わることが仕方ないことですが、よくなっていったら</p>

しいと思う。

- 先生方のちょっとした子どもの様子を、こまめに電話やバスのお迎えの時に教えていただけること、担任の先生だけではなく、園全体で優しく見守っていただいていることを感じ、安心して預けることができた。
- 保育の充実したこの幼稚園で、たくさんの園児さんが楽しく、我が子のように先生方に見守られてすごすことができるように応援している。

【保護者会役員とクラス委員他、保護者アンケート調査の自由記述から】